

2色の畑



磯原町大塚、大北川に架かる総寺院橋ちかくの畑で、大麦の穂がゆれ、レンゲソウの花が例年より遅い満開を迎えています。6月には麦を収穫し、レンゲソウを耕うんして、稲が作付けられる予定です。

市立病院の新体制 市議会全協で報告

新病院の建設予定地は 夏ごろまでに答申



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2
43-0468(福田)
42-2462(鈴木)

毎週 日曜日 発行

インターネットでも
ご覧いただけます。

4月18日に市議会の全員協議会が開かれました。市立病院の新体制が紹介され、桜井新院長と宮本新副院長があいさつしました。医師の定着・確保について、桜井院長は「医師がこれからも市立病院で働こうという意欲が持てるような条件の整備が必要です」と述べ、その改善に努める意向を示しました。

さらに、この4月から新設された経営企画員について、打越勝利氏(43才)の採用と、その経歴等が報告されました。経営企画員の業務内容は、①経営判断の情報収集、②医師確保の行動、③人事制度の見直し、④病院運営の効率化、⑤院長の諮問事項の調査の5つです。給与は月額80万円以内で決められ、非常勤特別職員のためボーナス等はなく1年契約です。

なお、市長の諮問機関である新病院基本計画策定委員会が再開され、新市民病院の建設場所などについて

「障がい者は支援してこそ 平等が保たれる」 「リハビリ若栗」を視察

自立支援法にともなう実態を知るため、日本共産党議員団は、高萩市にある知的障がい者の更正施設『リハビリ若栗』を訪ねました。養護学校に通った生徒の親御さんたちが中心になっての設立ということでは県内初の施設です。

開所から6年半、「措置」から支援費制度、そして自立支援法と、くるくる変わる制度に現場は翻弄されていました。たとえば、今まで施設内で自活訓練ができていたが、その機会が危ぶまれています。また、日帰りデ

5月1日付けで、小・中学校の学級が確定しました。市内の小中学生は2880人、113学級、中学校は1559人、50学級です。新一年生は小学校437人、中学校は504人、昨年よりそれぞれ37人、12人減となりました。小学校は、1学級分に匹敵する減少です。36人以上のクラスは、小学校では20、中学校では23

2006年度
5月1日付

小中学校の学級が確定

あります。31〜35人の学級は小学校で21、中学校で15となっています。これら人数の多い学級には、クラス単位で非常勤講師を配置し

いるとはいえ、国の制度として40人規模が変わらないため、非常勤講師や臨時任用の立場の先生が市内でも増えています。そうした不安定雇用は、子どもたちにとっても、働く教師にとっても、はたして好ましいことなのでしょうか。学級定員の少人数化を進め、正規雇用で安定した教育環境をつくることこそ国や自治体の責任です。



左から、平正三(高萩)、根本陽一(日立)、小林真美子(日立)、福田明、鈴木やす子の各市議

イサービス(レスパイト)が、養護学校に通う子どもたちの休日の居場所となっています。これが10月から地域活動支援センターに移されます。人の配置も十分で、親の不安は大きいとのこと。さらに、障害認定の区分が大きく変わることにより、施設退所の可能性があることも問題です。

「地域で暮らすとの理想はよいが、まだまだ地域には受け皿がない。国は障がい者の負担を平等にするというが、障がい者は支援をすることこそ平等が保たれるのです」との施設長の言葉が印象的でした。